

課題名：糖尿病の遺伝・環境因子の包括的解析から日本発次世代型精密医療を実現するプロジェクト

(代表者：門脇 孝 東京大学)

日本人に固有の感受性領域を同定し、欧米の糖尿病とアジア人の糖尿病との差異を説明する結果を得たことで、糖尿病患者の層別化と治療指針を与えるような成果につながる可能性が高い。精密な病気分類を施した上で、重症腎症かつ重症網膜症の症例を「合併症ケース」として大規模 GWAS を行い、オッズ比 2 – 3 のゲノム領域を見出したことは、今後の臨床的意義を評価することにつながるであろう。

薬剤反応性の予測法の確立においても、GLP1R の T2D との関連を初めて示したことは、今後の展開に道を開いたと評価できる。若手研究者に対して、システマティックなトレーニングが実施されているが、実質的な貢献やキャリアパス支援への具体的な活動も、継続して実施されることを期待する。